

南アフリカ為替週報

2021 年 12 月 2 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(11 月 25 日～12 月 1 日)

USD/ZAR: 15.7475～16.3675

ZAR/JPY: 6.95～7.29 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、振り返って、対ドルでは概ね横ばい、対円では若干水準を切り下げた。26 日には予想以上に急激なランド安が先行した。同日、新型コロナウイルスの新たな変異種(オミクロン株)の発現が南アで確認されたと報じられたことがきっかけ。南ア資産は、トリプル安となり、ランドだけでなく、株、国債が一斉に急落した。週明け 29 日以降、しかし、ランドは予想外に底堅い値動きに転じた。ランド、南ア国債の明確な反発は 30 日以降までずれ込んだが、南ア株は 29 日のうちに急反発(注)。30 日以降、ランド、南ア国債も明確に水準を切り下げ、1 日までに、それぞれ(ランド、株、国債)25 日以前の水準を回復した。30 日、米連銀パウエル議長は、米上院銀行委員会で「(インフレに関する)『一過性』との表現を取り下げる時がきた」「資産購入策の段階的縮小(テーパリング)を加速させる可能性を検討する」などと述べた。一連の発言が、テーパリングの早期終了、利上げ着手の前倒しを予見させたことで、ドルは、ユーロ、ポンドなど主要通貨に対し急騰。しかし、従来であれば、米利上げ前倒し観測にとりわけ敏感に反応(下落)してきた円の下げ幅は限定的、ランドを含む新興市場通貨全般はほとんど反応を示さなかった。調整的な反発と言う以外に、取り立てて南ア資産を買い戻す要因も見当たらず、同日発表された一連の南ア経済指標は、むしろ、軒並み失望を買う内容だった(後述)事実を鑑みて、ランドの堅調ぶりには極めて意外感が強かった。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
11/30	6:00	民間部門信用(前年比)	10 月	+1.29%	+1.75%	+1.60%
	9:30	失業率	Q3	34.9%		34.4%
12/00		貿易収支(ZAR)	10 月	+19.8bn	+23.0bn	+22.1bnr
12/00		財政収支(ZAR)	10 月	-36.8bn	-33.0bn	-7.3bn
12/1	13:07	自動車販売統計(前年比)	11 月	+6.6%	+6.3%	+6.1%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(12 月 2 日～12 月 8 日)

USD/ZAR: 15.800～16.200

ZAR/JPY: 6.90～7.10

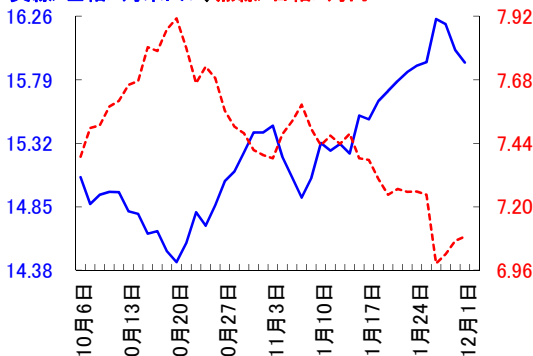
向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、軟調気味の膠着を予想。上述、30 日の米連銀パウエル議長発言に、円の反応が限定的、新興市場通貨全般がほとんど無反応だった事実が、何を意味するのか考える必要があるように思われる。反応を示さなかったのは、ランドだけでなく、ロシア・ルーブル、メキシコ・ペソなど広範な新興市場通貨に亘る。米利上げ前倒し観測が、事ここに至って、これ以上は織り込みようがない水準まで織り込まれてしまったということはないだろうか。言い方を変えるなら、既に来年第 2 四半期までの前倒しが観測されてきた利上げ開始のタイミングが、更に前倒しされるためには、従来のような強めの米経済指標だけでなく、敢えて利上げを「強要」するような切迫した材料が必要な段階まで来ている可能性があるということだ。ただし、ランドに強気になれない理由は、やはりオミクロン株の「発生源」という事実が重いから。南半球の観光シーズンを前に、ほとんどの国が南アへの渡航制限を厳格化させた事実は、観光業を外貨獲得の柱のひとつとする南ア経済にとっては、とりわけ大きな痛手となる。世界的な経済活動の停滞=需要減に対する警戒感の高まりが、金、プラチナなど貴金属、銅、ニッケルなど産業金属の値動きを重くしているのは、既にピークアウトした感の強い南ア貿易/経常黒字の先行きを占う上でも不安材料。加えて懸念を深めたのは、30 日に発表された第 3 四半期失業率。失業者数自体は 18 万人以上も減っているのに、失業率が上昇したのは、労働人口の縮小=就業を拒否/断念した人口の拡大によるもので、南ア経済の先行きに長く、暗い影を落とす内容だったと言える。

＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/7	6:00	総外貨準備高(USD)	11 月			57.52bn
	9:30	GDP(前年比)	Q3			+19.3%
12/8	9:30	企業景況感指数	11 月			
	11:00	小売売上高(前年比)	10 月			+2.1%

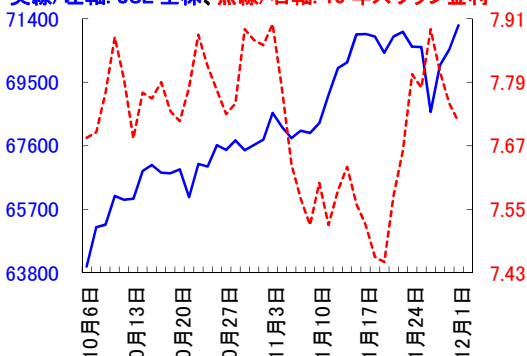
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	12 月 1 日	7.715%
株価指数(JSE 全株)	12 月 1 日	71198.08
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	10 月	+5.0%
小売売上高(前年比)	9 月	+2.1%
製造業生産(前年比)	9 月	+1.3%
鉱業生産(前年比)	9 月	-3.4%
貿易収支(ZAR)	10 月	+19.8bn
金価格(ロンドン 17:00)	12 月 1 日	1786.05

(注) 南ア株反発の要因としては、新興国株を指数運用する投資家によるリバランス(株価・ランドの下落により減価した保有ポートフォリオの南ア株割り当て分を回復させるため、新たに南ア株を買い足した)の可能性が考えられた

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。